

# Independence 02

市立札幌開成中等教育学校 発展期通信

発行：2020年6月11日

## “戻る”ではなく“作る”

およそ1か月半続いた（前年度から数えるとおよそ3か月にも及ぶ）休校期間も終わり、少人数短時間登校という形で学校が再開されました。すこしずつ学校生活の感覚がつかめてきましたか？

この間、とあるテレビ番組でコメンテーターがこんなことを言っていました。

「元の生活に戻るには、まだまだ時間がかかりそうです。」

私は、この言葉を聞いておや？と思いました。ほんの少しですが、違和感を覚えたのです。この違和は何から来ているのだろうと考えていると、どうやら“戻る”という表現にあるようでした。

今回の騒動で、さまざまな問題が私たちに突き付けられました。医療、政治、福祉、差別、社会の仕組み。それらは、新たな問題でもありましたし、見えていなかっただけで存在していたものだったのかもしれませんが。

「今までの生活こそが正しいものであり、望むべくものである」という答えは、とてもシンプルで心地の良いものです。そこにモデルがあるのですから。“戻る”という言葉には“引き返す”という意味をもちますが、今までの当たり前が大きく変わるパラダイム・シフト（転換点）に私たちはいます。様々な問題を解決するため、より良い生活を“作る”という表現こそが希望ではないか、と私は考えます。

ところで、この原稿を書いている時に、発展期主任の宮森先生に「“つくる”は、“創る”ではなく、“作る”なんだね。」と言われました。なるほど、“作る”という漢字を、無意識に選択していたようです。

“創る”という漢字は、全く新しいものを初めて生み出すときに多く使われます。一方、“作る”は、あるものに手を加えたり組み合わせることで新たに生み出す場合に使われます。

発展期の皆さんは、開成中等の学びからすでに多くのものを手にしています。そのことから、“作る”という漢字を選択したのでしょうか。そこにもまた希望があります。あなたが自分の心と頭の中を覗いてみたとき、どんなものを持っていることに気づくでしょうか？それらを組み合わせ、新たな生活を作っていきます。

発展期副主任 加賀

### <休校期間中、学習の取組>

- ・コズモアドベンチャー…iTunesU を利用して、数学の演習を行いました。ストーリー型の演習となっており、送られてくる問題を解いていくと、ウイルスと戦う人類の物語が進行していきます。
- ・9時ベン…午前9時からの勉強会の略。5/15～5/29、午前9時に iTunesU を通して送られてくる課題に取り組みました。回答を送り、正解すると、新たな問題が送られます。数学、英語、国語で実施しました。
- ・各教科からのプリント、動画配信

### <学校再開後の取組>

- ・前向き体操（5年）…ネガティブをポジティブに変換する力を養うため、一日一枚取り組んでいます。
- ・ネバギバ体操（6年）…あきらめない力を育成するため、論理問題などを一日一問出しています。共通テスト対策にもなります。（裏に、前向き体操、ネバギバ体操を掲載しています！）
- ・SELF 式学級編制（5年）…休み時間等を使って、自分たちの力で学級編制を行っています。いよいよ来週月曜日に学級が完成、17日から新しいクラスでの生活がスタートします。